

環境について
みなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

Save The Kikuchi River



淡

水性の二枚貝は種類が少ないのですが、ドブガイは珍しく大きい二枚貝です。私たちは子供の頃は「ドウランギヤー」と言つて親しくしていました。名前の由来は全く分かりません。「ギヤー」というのはこの辺りの「貝」のなまり語で、例えばマテガイを「マテギヤー」、ウバガイを「ウバギヤー」ということがあります。ドウランギヤーは標準名で「ドブガイ」といいます。色が黒いので「カラスガイ」という所もあります。

軟体動物イシガイ科ドブガイ属、あまりきれいな名前ではありませんが、昔はドブといつても今のよう汚い水ではなく、水底の泥に半分埋まったようにして棲んでいたのになな名がついたのでしょうか。かんがい用水の溜池(堤といます)の周辺の浅い所に群棲していたのでシウケ一杯捕つて、湯がいて中身を取り出し油炒めなどにして食

べたものです。堤は普通小さな谷の出口を締め切つて水を溜めたところですから水は非常にきれいですが、ヒシが生えたりホテイアオイなどが浮いていたりすると二見汚く見えま

ドブガイの大きさは10cm〜20cmもあり、大きいのは子供の頭ぐらいの部を泥から出し、入水管と出水管を出して水中の有機物やプランクトンをろ過して食べているようです。食べ物の種類が詳しく分か

べる力がないので、ヨシノビリやドンコのようなハゼ科の魚のヒレや尾にくっついて栄養を吸い取つて成長し、大きくなつて後から殻ができるよ

ドブガイは淡水魚の繁殖と深い関わりを持つていることで有名です。二ホンバラタナゴ(シビンチャ)は産卵管が長く体長以上の長さに伸びます。その卵管をドブガイの吸水管に差込み、その時雄も居合せて受精するようです。ドブガイの個体数が減つたということはシビンチャの仲間が減つたということと関係があるかもしれません。ドブガイもシビンチャも準絶命危惧種に指定されています。

分布は広くて、日本では北海道から九州まで、及びアジア大陸の東辺では中国東北から南はインドシナ半島までとなつていますが、非常に環境に敏感で変種も多いよう

歴史調査の楽しみ方

江 栗 城 跡 ①

1

大田 幸博

(元菊水町史編纂委員会副委員長)

8月6日(火)の午前中に、志口永城跡の調査を終えて、午後から江栗城跡の調査を開始しまし

和仁川に架かる平野橋から、標高を引つ張つてきましたが、調査日誌には、「まあ、とにかく暑かった」と書いています。田中城跡からは、「作業員の方

城跡は低い山(標高60m前後)で、和水町合併前は、菊水町と三加和町の町境に位置してました。縄張り

城跡の南縁直下を県道竈門・孤田山鹿線が走っており、裾野は菊池川

右岸ぎりぎりに面しています。県道に沿う形で、南西方向に江栗集落があります。

調査には、城跡の東下にある有明広域行政事務組合第2衛生センターから登つて行きます。職員の皆さんは親切で、飲料水の差し入れがありました。嬉しいものです。

町が作成した地形図を見ますと、城域は、南下が菊池川、東下が衛生センターの迫地、西下が県道

問題は、北側です。II郭の北側は、痩せ馬の地形で、尾根が細く括れています。それから、程ない所で山腹の西側を二直線に下る谷があります。この事で山全体の地形は、極端に括れま

れています。そうすると、一段階の縄張り

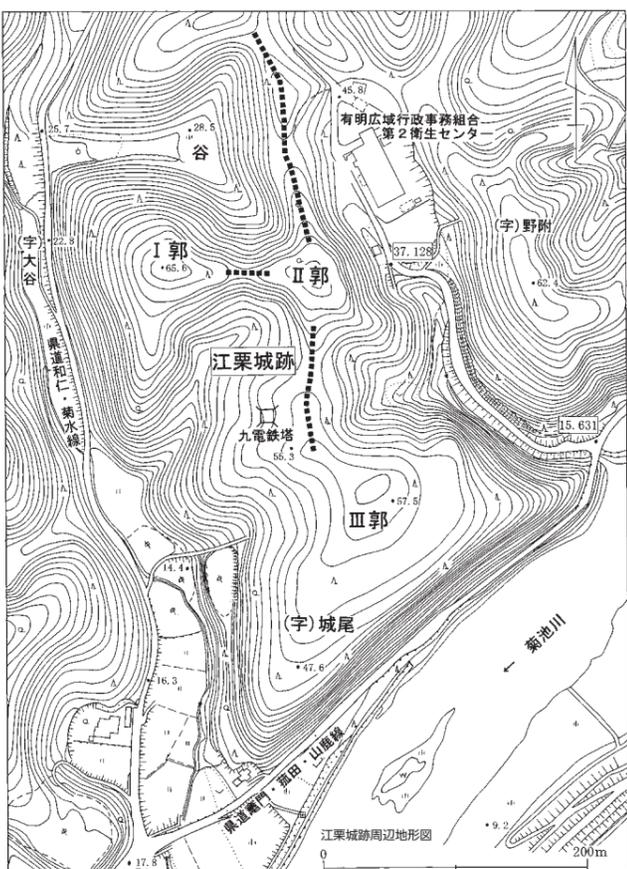
しかし、江栗城跡では、まだ、この堀切や、それに見合う類似の遺構を認めるに至っていません。したがつて、城跡の北限が、未確認という事になります。

I郭とII郭は、低山における、ちよ

とした高まりです。それでも、地形図には、その形が良く表れています。II

郭とI郭の間は、手が加えられた痩せ馬地形で、両郭に残る削り落しの痕跡を一緒に眺めると、山城の匂いが周

この城跡も、志口永城跡と同様に、文献に記録がありません。



※■■■■は、痩せ馬地形。
※図中の標高で、[15.631]・[37.128]は測量数字。他は地形図に表記されている数字です。